

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 29 2011/01/12

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第29号の内容はこちらです。

■年頭挨拶

■依頼試験・設備使用・性能評価のお知らせ

■イベントのお知らせ

防災ワンデー「釧路防災講演会2012～来るべき大津波に備えて～」を開催します

建築・住宅セミナーを開催します

「2012木製サッシフォーラム」を開催します

■特集 「北海道の想定地震」

■研究紹介 「地域における既存木造住宅耐震性能の実態把握に関する研究」

■最近の研究所の動き

- 地震防災セミナーが開催されました
- くしろ安心住まいフェア2011を開催しました
- 住宅技術セミナーを開催しました
- 韓国寒中コンクリートセミナーに参加しました
- 12月の業務報告
- 構造計算適合性判定センターから

=====
年頭挨拶
=====

新年あけましておめでとうございます。
平成24年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は深刻な被害をもたらし、防災に対する取組の重要性を再認識させられただけでなく、電力などエネルギー需給の問題は、日本全体に影響をもたらしています。
さらに、それぞれの地域では、少子高齢化、人口減少による地域コミュニティの維持等の課題を抱えており、将来に向けた持続可能な運営に関する検討は急務となっております。

このような状況を踏まえ、本年は、本道特有の地域課題を総合的にとらえ、これからの持続可能な地域社会の実現に向けた取組の方向性を検討するスタートの年と位置づけ、地域コミュニティの実態把握に着手するほか、ゼロエミッション社会に向けて省エネルギーや再生可能エネルギー利用などの研究をより一層進めるとともに、住宅・建築産業の活性化に貢献してまいりたいと考えております。

また、東日本大震災の被災地域において、北方型住宅や環境負荷低減技術の移転などにより、災害復興の積極的支援に努めてまいりたいと考えております。

建築・住まい・まちづくりに関する調査研究とその成果の普及・技術支援・依頼試験等に、これまで以上に取り組み、北海道らしい豊かな暮らしなど将来を見据えた活動を着実に推進し、住宅・建築関連業界をはじめ、広く道民の皆様のお役に立ちたい。そのような思いを胸に、新しい年を迎えております。

本年が、皆様にとりまして希望に満ちた年になりますことを心から祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

建築研究本部長 兼
北方建築総合研究所長 瀧田 裕道

=====
依頼試験・設備使用・性能評価のお知らせ
=====

北総研で行っている、依頼試験・設備使用・性能評価の各業務について、ホームページに掲載しておりますが、改めてお知らせします。

○依頼試験

材料開発や技術開発の支援のため、建築関連企業などからの依頼により、建築物またはまちづくりに関する試験・調査、指導を行っています。

- ・強度または耐久に関する試験
- ・耐火または防火に関する試験
- ・熱、湿気または空気質に関する試験
- ・動風圧に関する試験
- ・音響に関する試験
- ・建築物またはまちづくりに関する試験
- ・建築物またはまちづくりに関する調査又は指導

* 詳細の可能試験、試験までの流れ、料金、申込用紙等については、下記からご覧下さい。

http://www.nrb.hro.or.jp/operate/irai_siken.html

○設備使用

材料開発や技術開発の支援のため、建築関連企業などの皆さまに各実験室、機械器具を利用いただくことができます。

- ・室内環境シミュレータ室
- ・外部環境シミュレータ室
- ・防音実験室
- ・風洞装置等

* 詳細の設備、設備利用までの流れ、料金、申込用紙等については、下記からご覧下さい。

http://www.nrb.hro.or.jp/operate/setubi_siyou.html

○性能評価

建築基準法に基づく指定資格検定機関等に関する省令第59条第1号、第2号、第8号の3に掲げる区分について業務を行っています。業務区域は日本全域です。

が大切であり、災害から身を守るためには、平常時からの防災対策や備えが重要です。

この講演会では、防災意識の向上を図り安全で安心なまちづくりを目指すことを目的としています。皆様の参加をお待ちしています。

(性能評価課 南)

■【建築・住宅セミナーを開催します】

日 時：平成24年2月2日（木）14：00～15：30

場 所：KKRホテル札幌5階丹頂の間（札幌市中央区北4条西5丁目）

講演内容：よくわかる建物の屋根雪対策 ー屋根雪事故を防ぐためにー

毎年、屋根の雪下ろしなどの除排雪作業等でたくさんの方々が事故に遭われています。

本格的な雪のシーズンを迎え、事故を未然に防ぐために建物の屋根雪対策について、北総研の研究成果から皆さまに解説いたします。

詳しい内容やお申し込み方法は下記ホームページをご覧ください

<http://www.nrb.hro.or.jp/pdf/120202sidousenta.pdf>

多数の方のご参加をお待ちしております。

(企画課 神田)

■【「2012木製サッシフォーラム」を開催します】

日 時：平成24年2月10日（金）13：00～16：30

場 所：大雪クリスタルホール国際会議場（旭川市神楽3条7丁目）

道総研森林研究本部林産試験場、北海道木製窓協会と共催で2012木製サッシフォーラムを開催します。

今回のテーマは「まど・空間・そとをつなぐ」です。

戸外と室内をつなぐ窓や空間の機能、そこへの木材利用などについて建築に携わる様々な立場の方からの提言とともに、参加された皆様と一緒に意見交換を行います。

詳しい内容やお申し込み方法は下記ホームページをご覧ください

<http://www.nrb.hro.or.jp/pdf/120210mokusei.pdf>

多数の方のご参加をお待ちしております。

＝＝

特集 「北海道の想定地震」

＝＝

17年前の1月17日に淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、神戸市や淡路島周辺に甚大な被害が発生しました。死者6344名住家全壊棟数は、10万棟を越え、後に「阪神・淡路大震災」と呼称されることになりました。

被災地の倒壊した数多く建物を目の当たりにし、建築・都市の抱える脆さに多くの関係者が衝撃を受けた災害でした。この「阪神・淡路大震災」を踏まえ平成7年7月、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、地震防災対策特別措置法が議員立法によって制定されました。この法律に基づいて国において「地震調査研究推進本部」が設置され、地震に関する調査研究の責任体制が一元化されました。

この「地震調査研究推進本部」の役割の一つに活断層と海溝型地震を対象にした地震が発生する確率や規模などの「長期評価」があり、北海道に被害を及ぼす地震が示されています。また、中央防災会議に、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会」が設置され、北海道太平洋沿岸の地震防災対策が進められてきました。

このようなことから北海道では北海道防災会議地震火山対策部会地震専門委員会に想定地震見直しに係るワーキンググループが設置され、想定地震の見直しが進められ、平成23年3月に報告書が公表されました。

当研究所では、同時期に重点研究「災害に強い都市構造形成のための自然災害リスク評価手法の開発に関する研究」を実施し、その成果をワーキンググループに委員として参画することにより研究成果を報告所に反映させてきたところです。

この報告書では、北海道に影響を与える地震として、「千島海溝南部・日本海溝北部」・「500年間隔地震」・「日本海東縁部」・「プレート内のやや深い地震」・「活断層帯」・「札幌市直下の伏在断層」・「既往の内陸地震」・「網走・紋別沖」が想定されています。これらの地震に対して概算ではありますが、強震動予測及び被害想定を実施しています。

活断層による被害は、断層モデルの設定の仕方に影響を受け、想定される被害量が変化します。同じ活断層による地震でも、市町村によっては被害がほとんど

どない場合から甚大な被害が発生する場合まで様々なケースが想定されます。
このことは、地域の防災を考える上で重要な視点となります。

地域の防災は地域で考えていくことの重要性を踏まえ、今後とも安全な北海道
を実現を目指し調査研究に取り組んでいきます。

(居住環境G 戸松)

=====
研究紹介 「地域における既存木造住宅耐震性能の実態把握に
関する研究」(H21~22道受託研究)
=====

住宅・建築物の地震対策として、阪神・淡路大震災での人的被害の原因の大部分が建物倒壊であったことなどを受け、平成17年より都道府県による耐震改修促進計画の作成が義務づけられました。北海道は、平成18年に耐震改修促進計画を策定し、27年までの10年間に地震による建築物の被害を半減させることを減災目標にして、住宅及び多数の者が利用する建築物の耐震化率を9割とすることを定めています。市町村についても、平成19年度から計画を順次策定しています。

この研究では、耐震化を促進するためには道内の既存木造住宅の耐震性能の現況を把握することが重要なことから、既存木造住宅の診断による耐震性能の実態を把握することにより、市町村の耐震改修促進計画策定や、道の計画における耐震化率の見直しなどのための基礎資料を作成することを目的として実施しました。

主な実施内容としては、北海道全体における耐震性能の実態把握を行うために、市町村ごとの木造住宅の年代別割合の把握と、木造住宅の一般耐震診断結果について分析を行っています。また診断結果の活用方法として、道内における木造住宅の耐震性のある木造建物の割合を検証方法や耐震化促進による被害軽減の効果の算定方法を検討しています。

調査研究結果については、北海道の耐震化目標における耐震化率の検証に利用されています。また、結果を踏まえて今年度より耐震改修促進計画の減災目標の達成状況の検討などに関わる研究を継続的に実施しています。

(居住科学G 竹内)

＝＝＝
最近の研究所の動き
＝＝＝

■【地震防災セミナーが開催されました】

住宅建築物の耐震診断や耐震改修の必要性や効果についての知識の普及を図ることを目的としたセミナーが、12月8日（木）に中標津町総合文化会館で、12月9日（金）に釧路市消防本部で開催されました。

前半は、人と防災未来センターの語り部の谷川三郎氏から「地震に備えた心構え～阪神・淡路大震災の体験から」と題して、災害時のリーダーシップ、家族・近所の絆、地震への備えについての講演がありました。

また、北海道大学大学院教授の岡田成幸氏から「道東巨大地震に備えて～東日本大震災の教訓と住宅の耐震化」と題して、道東に想定される地震動、東日本大震災の教訓、住宅耐震診断と室内安全化、共助についての講演がありました。後半は、会場からの質問も交えて、大震災に備えた地域の防災力（自助、共助、公助）を高めることについての話し合いが行われました。

（性能評価課 南）

■【くしろ安心住まいフェア2011を開催しました】

平成23年12月10日（土）、釧路市こども遊学館にて、北海道釧路総合振興局の主催、北総研と釧路市、釧路市こども遊学館の共催で、くしろ安心住まいフェア2011を開催しました。

ほのぼののあかりづくりや防災体験など体験型のイベントを多数実施しました。当日は小さなお子様などを中心に325名の方々が参加していただき、建物のことや防災の心構えについて楽しく理解していただきました。

（企画課 神田）

■【住宅技術セミナーを開催しました】

平成23年12月12日（月）、札幌市第一ホテルにて、社団法人北海道住宅都市開発協会、札幌商工会議所、住宅金融支援機構北海道支店の協力のもと、「住宅技術セミナー」を開催しました。

このセミナーでは、環境科学部の植松より「木造住宅の接合部開発・設計について」と題し、当所が中心となって行った研究成果である、フレーム構造を設計する際にポイントとなる接合部の考え方について説明しました。

間取りの変更が容易に行えるフレーム構造形式による、道産材を使用した「長寿命住宅」を実現する設計技術について、同協会の参加企業や、設計事務所の皆様ににご理解をいただきました。

また、住宅金融支援機構北海道支店小澤部門長より、新たに創設された「フラット35Sエコ」制度について説明をしていただきました。

(企画課 伊藤)

■韓国寒中コンクリートセミナーに参加しました

平成23年12月22日(木)～23日(金)の2日間、韓国清州大学校および韓国建築学会会館において開催された寒中コンクリートセミナー

“Seminar of Recement development of cold weather concreting”にご招待頂き、講演を行ってきました。

このセミナーは、韓国の清州大学校が主体となり、建設技術者、コンクリート関連技術者、設計者の方々に、寒中コンクリート工事に関わる最近の技術を紹介・解説するものです。

冬本番となった旭川から、ソウルに降り立つと、気温は10℃近くあり、大変暖かく、寒中コンクリート工事の必要性に疑問も感じたのですが、一晩明けた翌日は、急激に-10℃近くまで冷え込んでいました。例年このように暖かい日があるものの、急激に冷え込む日が続くこともあると聞き、韓国での寒中コンクリート工事の必要性を強く認識しました。

韓国では、景気にかげりが見えてきたとはいえ、沢山の高層マンションがあちらこちらで施工されており、冬期施工を行っている物件がいくつも見受けられました。

日本での建築工事での寒中コンクリート工事は、日本建築学会から発行されている「寒中コンクリート施工指針・同解説」に基づいた施工が行われ、品質が確保されています。この指針には古くから当所の研究成果が盛り込まれています。

韓国ではこのような指針等の整備ができておらず、施工会社等がそれぞれの考えで寒中コンクリート工事が行われているとのことでした。施工および管理は、それぞれの技術力にゆだねられているため、温度管理などが適切に行われていない場合も多く、初期凍害等の発生も多いといえます。このような事をふまえ、清州大学校と建築学会では寒中コンクリート工事のセミナーを行い、寒中コンクリート工事の適切な手法について、広く周知していこうとしています。

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。